

マンスリー・ハイライト 拝啓社長殿

トップのための経営財務情報

第 499 号 この資料は全部お読みいただいて 140 秒です。

今回のテーマ： 習近平政権下での日系企業への影響を考える（１）
（今回のテーマは今月号と来月号の２回連載となります）

習近平の政権基盤の弱さ

2010 年 10 月の中国共産党第 11 期第 5 回中央委員会全体会議で、習近平が中央軍事委員会副主席に任命されました。すでに党中央政治局常務委員、党中央書記処書記、国家副主席など党の主要ポストに就いている習近平が、軍のポストも押えることで、2012 年秋の共産党大会で胡錦濤にかわる新しい党総書記とに選出されることがほぼ確実となっています。なお、党総書記の任期は江沢民以降、2 期 10 年が不文律となっています。しかし、習近平政権は、これまでの江沢民政権や胡錦濤政権と比較して、その政権基盤は脆弱で不安定だと指摘されています。

中国では、民主選挙が実施されないため、政治家は『民衆による審判を経た』という正当性が担保されていません。江沢民と胡錦濤は、絶対的権力者であった鄧小平から実質的な指名を受けたという『お墨付き』を貰うことで、他の政治勢力を超越した権力の正当性を主張出来ました。しかし習近平の選出の過程では、こうした絶対的後ろ盾はありませんでした。

中国では現在、中国共産主義青年団（将来の共産党高級幹部を育成する共産党下部組織でいわゆるエリートコース、胡錦濤や次期首相候補である李克強など）、上海閥（江沢民を中心に北京中央に人脈を持たない党幹部が集まる非主流派）、太子党（共産党の高級幹部の子弟で特権的地位の 2 世集団、習近平が属する）などが主要な政治派閥になっています。各派閥の力関係は選挙結果という客観的な比較材料がないため、曖昧で、今回の習近平が選出された理由も、妥協による消去法的な側面が否めません。現在、共青团は新政権後の影響力を維持するべく画策していますし、太子党内でも前重慶市党書記の薄熙来が 2012 年 3 月 15 日に突然解任されるなど、一枚岩でない内部権力闘争があります。

人民解放軍との関係

習近平はこれまであまり注目されて来なかった人物であるため、どのような政権運営をしていくかは、未知数の部分が多いと言われています。しかし、これまでの政権と異なり、習近平は人民解放軍との関係は比較的良好だと言われます。毛沢東が「政権は銃口から生まれる」と言ったように、中国では軍を掌握できるかは、政治力を大きく左右します。その点で、習近平は中央軍事委員会で勤務した経験があること、軍に太子党幹部が多いことなどから、軍内部に多くの人脈を有していると言われます。こうした軍事的な後ろ盾が影響するのか、習近平が国家副主席に就任した 2008 年以降、フィリピンやベトナムとの南シナ海における領海問題や、尖閣諸島沖中国漁船衝突事件での日本への対応など強硬な外交姿勢が目立つようになってきています。今後は、より中国の国益を鮮明に主張するようになってくるものと思われます。

お見逃しなく！

習近平政権では、これまで以上に、『集団指導体制』の下で政治的な不安定さが増し、場合により政策面でのブレを生じたり、重要事項がなかなか決定されないという可能性もあります。中国に進出する日系企業にとっては、従来以上に、中国の政治動向、マクロ経済の大きな方向性を常に捉えながら、柔軟に中国ビジネス戦略を調整していく必要があると思われます。